

大会参加にあたってのチェックリスト①～最新版(赤字追加)～

参加選手の注意事項 「生徒配布+大会時入場口に掲示」

□公共交通機関利用時もマスクの着用等、予防の徹底をすること。

□参加承諾書兼健康チェック表を漏れがないように記入し提出すること

□体調管理を徹底し、少しでも体調がすぐれないときは参加を見合わせること。

○大会前(当日)に以下の項目の症状がある場合は参加を見合わせてください。

- ・平熱を超える発熱(37度5分以上) ・咳、のどの痛み ・胸の痛み
- ・嗅覚、味覚異常 ・鼻水・鼻づまり ・息苦しい ・全身倦怠感

***大会前の体調管理を徹底し、上記症状が続いていた場合には参加を見合わせる事。**

***大会2週間前からの検温や体調チェックは各校実施の物で確実にチェックをすること**

○大会前に以下のいずれかに該当する場合には参加不可とします。

- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合(待機期間内)
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・大会前14日以内に政府からの入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

□入場前後、試合前後、トイレ後等、手洗い(30秒以上)やうがい、手指の消毒の徹底をすること。

□手洗い後に手を拭くためのマイタオルと汗ふきタオルの両方を持参すること。

□マスク等の持参・着用をすること。

□入場時、会話時、着替え等の競技を行っていない間については、マスクを着用すること。(ただし、運動中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとするが、夏の大会に関しては、熱中症等のリスクが高まるので競技中の選手はマスクを外すことを推奨する。)

□コート外の選手(ベンチ・アップエリアにいる選手)は必ずマスクを着用すること。

□マスク着用時は、こまめに水分補給し、熱中症予防に努めること。

□受付時・入場時・練習中・更衣中等も、互いの距離をとること。

□練習中、試合中の大きな発声は控えるようにすること。

□ネット際等でも、相手に向けた状態での大きな発声は控えること

□鼻水、唾液などが付いたゴミやマスク、使用済みのテーピングなどはビニール袋に入れ持ち帰ること。

□スクイズボトルの回し飲み・タオルの共有等もないようにすること

□試合開始時と終了時の取り扱いの徹底をすること。

実施方法 試合開始時・終了時のホイッスル後

(1)アタックラインまで行き整列、互いに礼 (2)審判の方に向き直して礼 (3)ベンチに戻る

*握手をしない形での実施となります。

□メンバーチェンジ時も手の平を合わせないこと。

□タイムアウト・セット間には必ず手指消毒を実施すること。

□競技中のハイタッチや円陣等は腕のタッチ等にとどめること。

□競技中、靴底を手でさわらないこと。

□試合前、タイムアウト、セット間等のミーティングも距離を取ること。

□ウォームアップエリア等からの声を出しての応援(声援)はしないこと。

□試合後、ベンチや使用した物品の消毒を行うこと。

■その他、要項や感染症に対する京都府中体連ガイドラインのプリントを熟読し守ること。

参加にあたってのチェックリスト②

運営側（チーム責任者）の注意事項

「生徒への指導等の徹底+大会時教官室等に掲示」

- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた承諾書兼健康チェック表について、保存期間（少なくとも1月以上）を定めて保存しておくこと（各校顧問が管理・保管）＊大会2週間前からの体調管理の徹底（各校での健康観察表のチェック・当日の検温等）
- 大会参加に当たり、生徒については保護者の理解を得た上で、無理が無いように配慮すること。また、基礎疾患がある場合は主治医に相談し適切に判断すること。
- 各校代表者は各事項がきちんと遵守できるように指導すること
- 運営スタッフ（各校顧問）等は、必ずマスクを着用すること
- 審判時は電子ホイッスル（マスク着用の上ホイッスルも可）を使用すること（音量の小さい物は不可）
- 大会後、2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は速やかに、各校から専門部に濃厚接触者の有無等について報告すること
- スクイズボトルの回し飲み・タオルの共有等もないように指導すること
- 入場前後は手洗い（30秒以上）や手指の消毒を済ませ、前グループが完全に退場してから入場するように指導すること。
- 公共交通機関利用時もマスクの着用等、予防の徹底を指導すること。
- 参加承諾書兼健康チェック表を漏れがないように記入し提出させること
- 体調管理を徹底し、少しでも体調がすぐれないときは参加を見合わせるよう指導すること。
- 手洗い後に手を拭くためのマイタオルと汗ふきタオルの両方を持参するよう指導すること。
- 運動中以外のマスク等の着用・持参を指導すること。
- 入場時、会話時、着替え等の競技を行っていない間については、マスク着用を指導すること。（ただし、運動中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとするが、夏の大会については熱中症等のリスクが高まるので競技中の選手はマスクを外すことを推奨し、指導すること。）
- 受付時・入場時・練習中・更衣中等も、互いの距離をとることの指導をすること。
- 練習中の大きな発声は控えるように指導すること
- ネット際等でも、相手に向けた状態での大きな発声は控えるよう指導すること
- 鼻水、唾液などが付いたゴミやマスク、使用済みのテーピングなどはビニール袋に入れ持ち帰るように指導すること。
- スクイズボトルの回し飲み・タオルの共有等もないように指導すること
- 試合開始時の取り扱いや、試合時の喜び方など適切に指導すること。
- メンバーチェンジ時も手の平を合わせないことを指導すること。
- タイムアウト・セット間には必ず手指消毒を実施するよう指導すること。
- 競技中のハイタッチや円陣等は腕のタッチ等にとどめることを指導すること。
- 競技中、靴底を手でさわらないことを指導すること。
- 試合前、タイムアウト、セット間等のミーティングも距離を空けるよう指導すること。
- その他、要項や感染症に対する予防徹底のプリントを事前に参加者に指導すること。
- コート外の選手（ベンチ・アップエリアにいる選手）は必ずマスクを着用するよう指導すること。**
- マスク着用時は、熱中症予防のため、こまめに水分補給するよう指導すること。**
- 試合後、ベンチや使用した物品の消毒を行うこと。**

参加にあたってのチェックリスト③

会場使用時の注意事項 「教官室等に掲示」

- 最終日以外の会場は、事前に手指消毒液やハンドソープ、物品消毒液やペーパータオル等を各校で使用している物を準備しておく。（最低限の物は専門部で準備）
- 体育館入場口（受付）には、手指消毒剤を設置すること（2カ所）
- マスクを準備すること
- 感染防止のための実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを体育館入場口等に掲示する
- 荷物を置く場所をあらかじめ指定し提示する（屋外待機場所）
- 体育館外の手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する
- 体育館外の手洗い場に「手洗いは30秒以上」等の掲示をする
- 体育館外の手洗い場で、手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する
- 更衣室、待機スペースでは広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける
ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる
こと（校舎内の体育館や雨天時のみ）
- 体育館内や更衣室又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所
（ドアノブ、ロッカーの取手、記録テーブル、記録物品、イス、試合球、ラインフラッグ、ポールカバー、ネット上下白帯、モップ、得点板等）については、試合の入れ替えごとに役員ならびに試合が終了したチーム・次の試合チームの顧問で消毒すること。
試合球については、ボールの品質保持のため、消毒後水拭きをすること。
- ベンチについては、試合で使用したチームが消毒をすること。
- トイレは換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること
- トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）についても、役員（参加チーム顧問）でこまめに消毒すること
- トイレが洋式の場合は蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること
- トイレの手洗い場にも石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- トイレの手洗い場に「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 会場内も、換気のため、扉や窓を開放したままの状態を実施をして換気の徹底をすること。
- やむを得ずカーテン等閉める場合は、セット間・試合間に全てを開けて必ず換気をすること。